

# < 経営概況説明 >



Mitsui Chemicals

**強い三井化学グループを目指して**  
～ 機能性材料分野の拡大加速～

2006.11.13

三井化学株式会社

社長 藤吉 建二

# 目 次

- 1 . 業績推移と事業環境
- 2 . 石化・基礎化分野の収益力強化
- 3 . 機能性材料分野の拡大・成長
- 4 . C S R の取り組み

# 1. 業績推移と事業環境

## 成長の方向と業績推移

< 成長の方向 >

< 目指すべき企業像 >  
世界の市場で存在感のある強い三井化学グループ

変革への挑戦

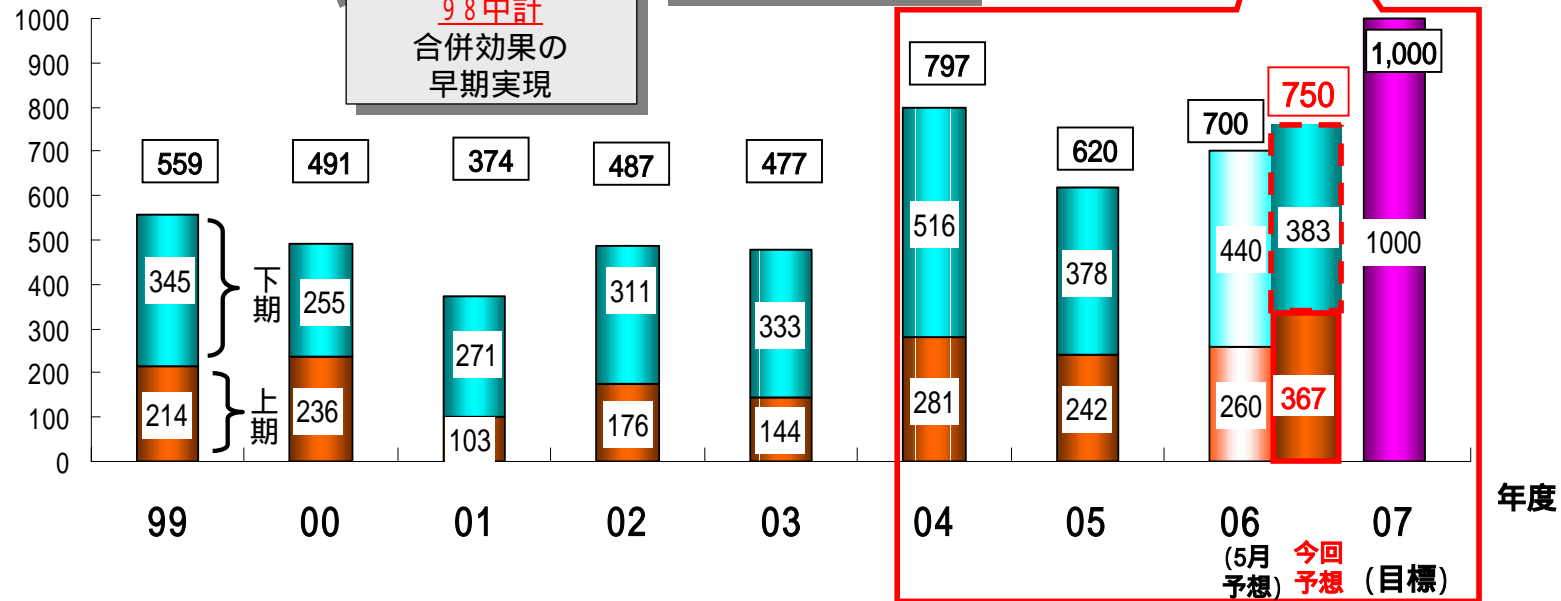
0.4中計  
量的拡大から質的拡大への転換

< 連結経常利益 >

0.1中計  
三井化学グループの更なる拡大と成長

9.8中計  
合併効果の早期実現

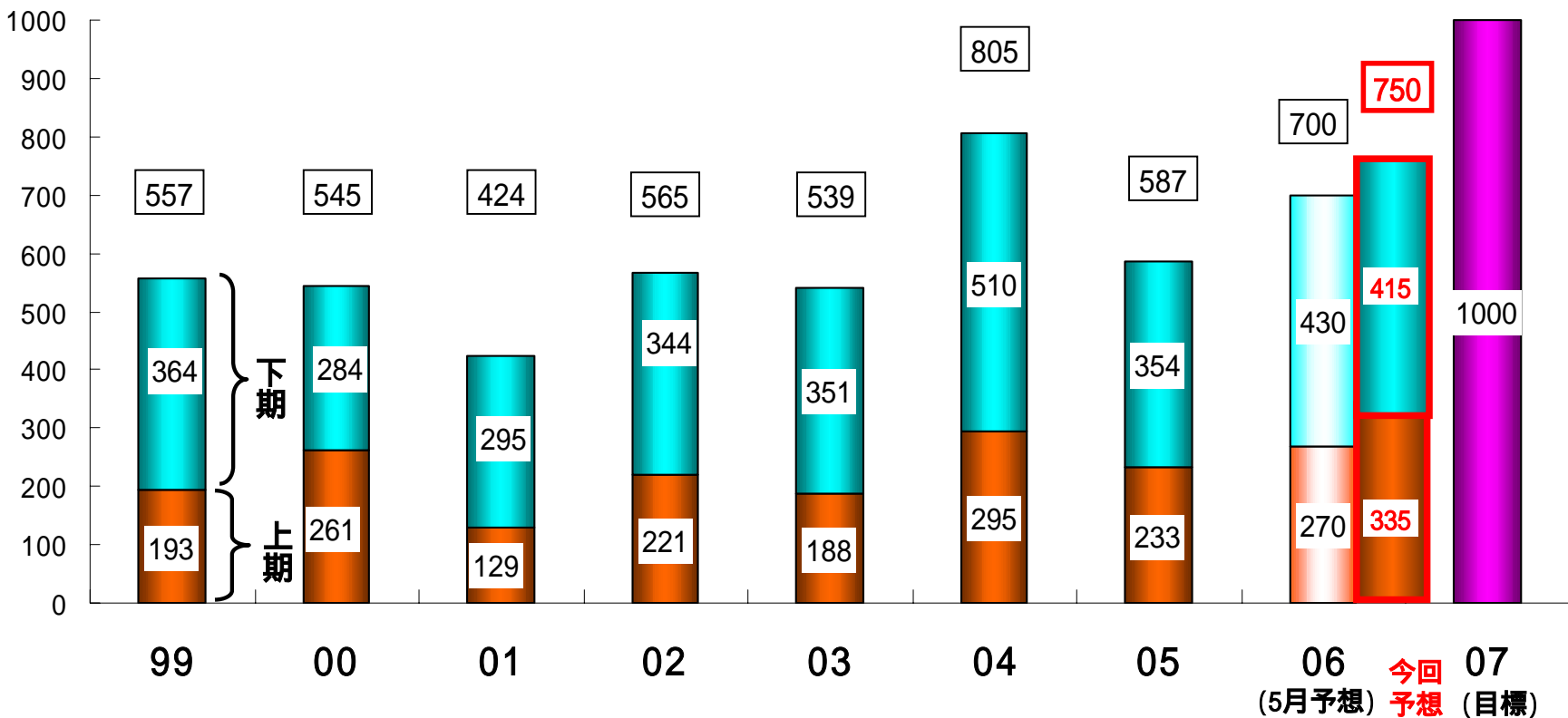
(単位: 億円)



# 1. 業績推移と事業環境

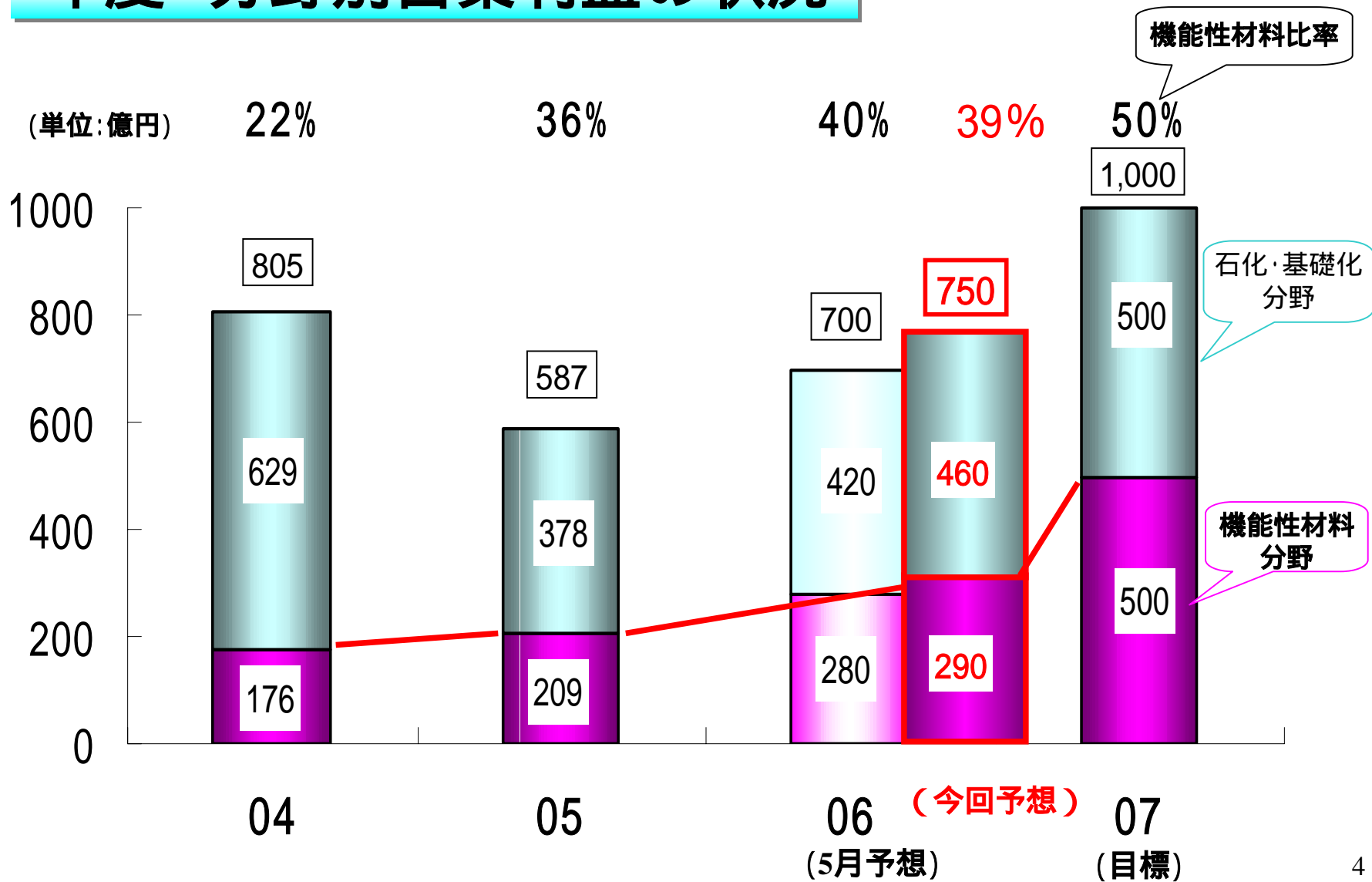
## 上 / 下別 営業利益の状況

(単位: 億円)



# 1. 業績推移と事業環境

## 年度 分野別営業利益の状況



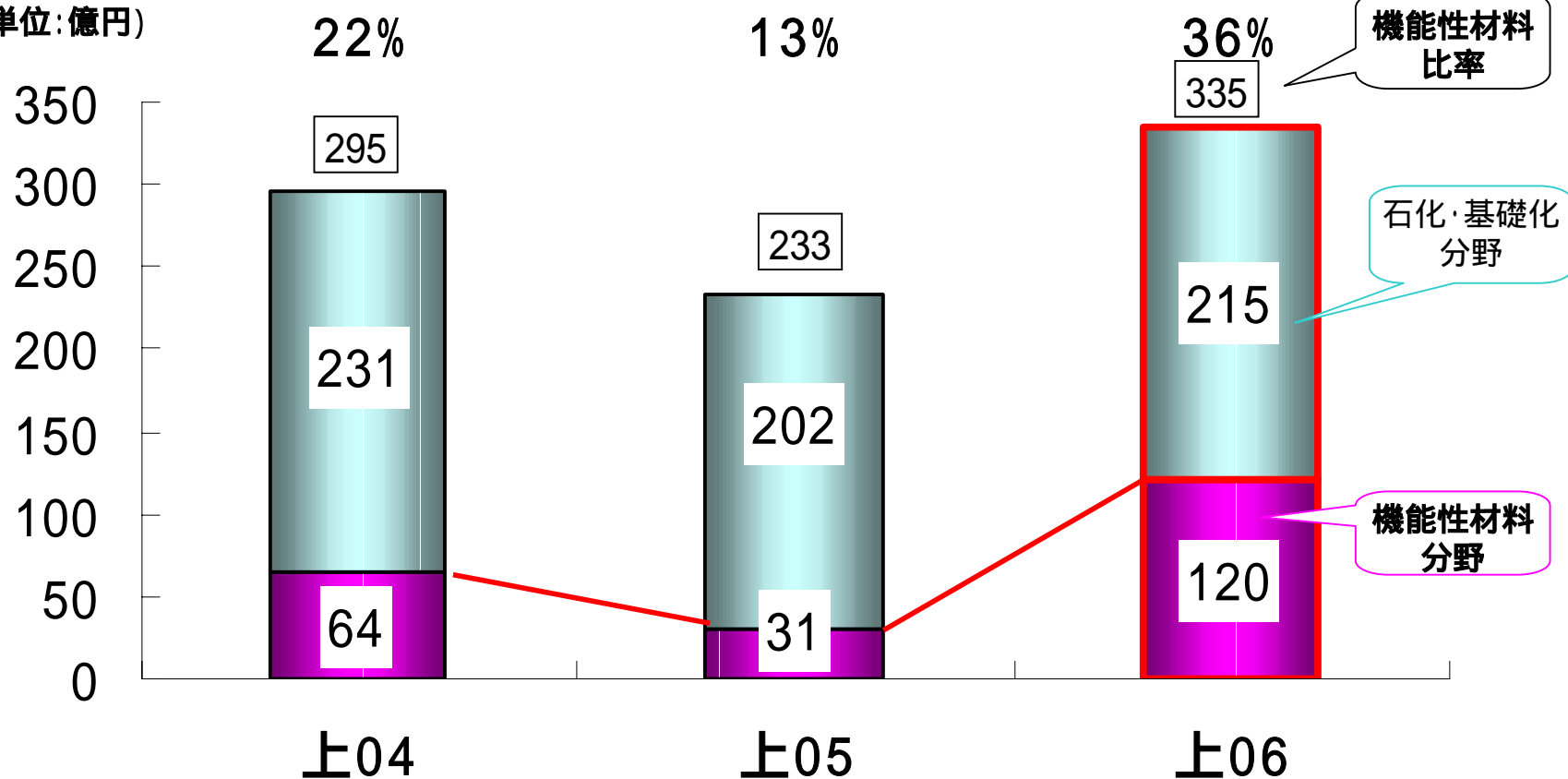
# 1. 業績推移と事業環境

## 上期 分野別営業利益の状況

機能性材料分野は、直近3年で最高益。

石化・基礎化分野は原燃料高騰の影響が継続中

(単位: 億円)



# 1. 業績推移と事業環境

## 分野別営業利益の増減内訳

< セグメント別営業利益の内訳 >

(単位: 億円)

セグメント	上/05期 決算	上/06期 決算	増減	増減内訳			
				数量差	交易条件	固定費差	備考
機能化学品	33	59	26	42	16	0	PDPフィルター、NF3、MR、 農薬
機能樹脂	2	61	63	12	43	8	TDI
基礎化学品	134	43	91	40	151	20	PTA、PH
石油化学	71	175	104	64	22	18	オレフィン、ホリオレフィン (定修スキップ)
その他	3	3	0	6	5	11	
合計	233	335	102	164	97	35	

# 1. 業績推移と事業環境

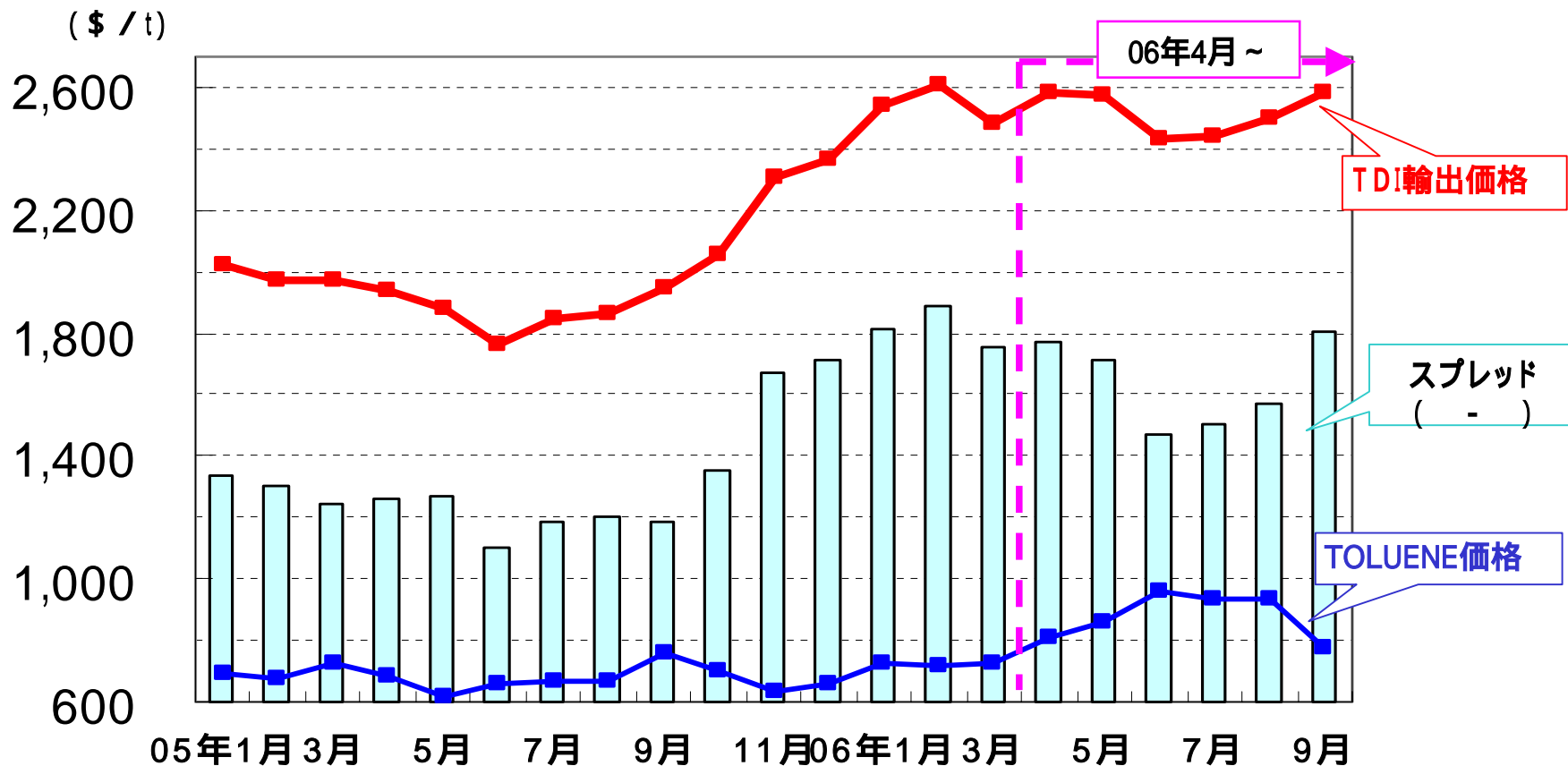
## TDI市況

TDI市況は高止まりが継続。

ダウ(伊:12万t)停止、バイエル(米:8万t)トラブルにより、年内は供給タイト続く見通し。

アジアにおけるTDI生産能力

千t/年	
三井化学ポリウレタン	240
<b>BASF(上海:06.8~)</b>	<b>160</b>
BASF(韓国)	140
韓国KFC(韓国)	90
DC化学(韓国)	45
南亜プラスチック(台湾)	30





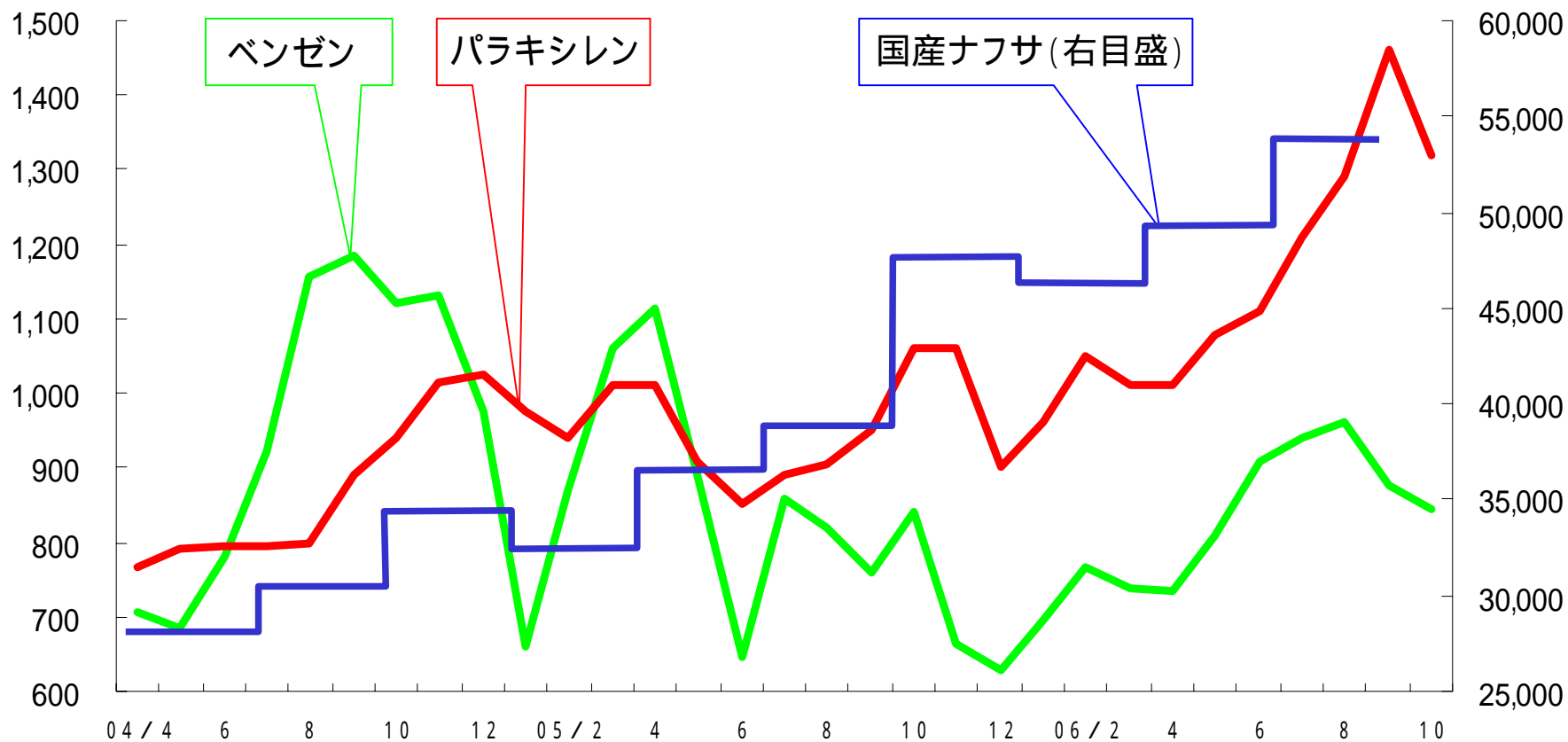
# 1. 業績推移と事業環境

## ナフサ、PX、BZ価格推移

ナフサ、パラキシレンは価格高騰、ベンゼンは乱高下

PX/BZ(\$ / t)

国産ナフサ(円 / kl)



# 1. 業績推移と事業環境

## 原料多様化の取組

春・夏季に価格競争力のある非ナフサ原料を積極活用

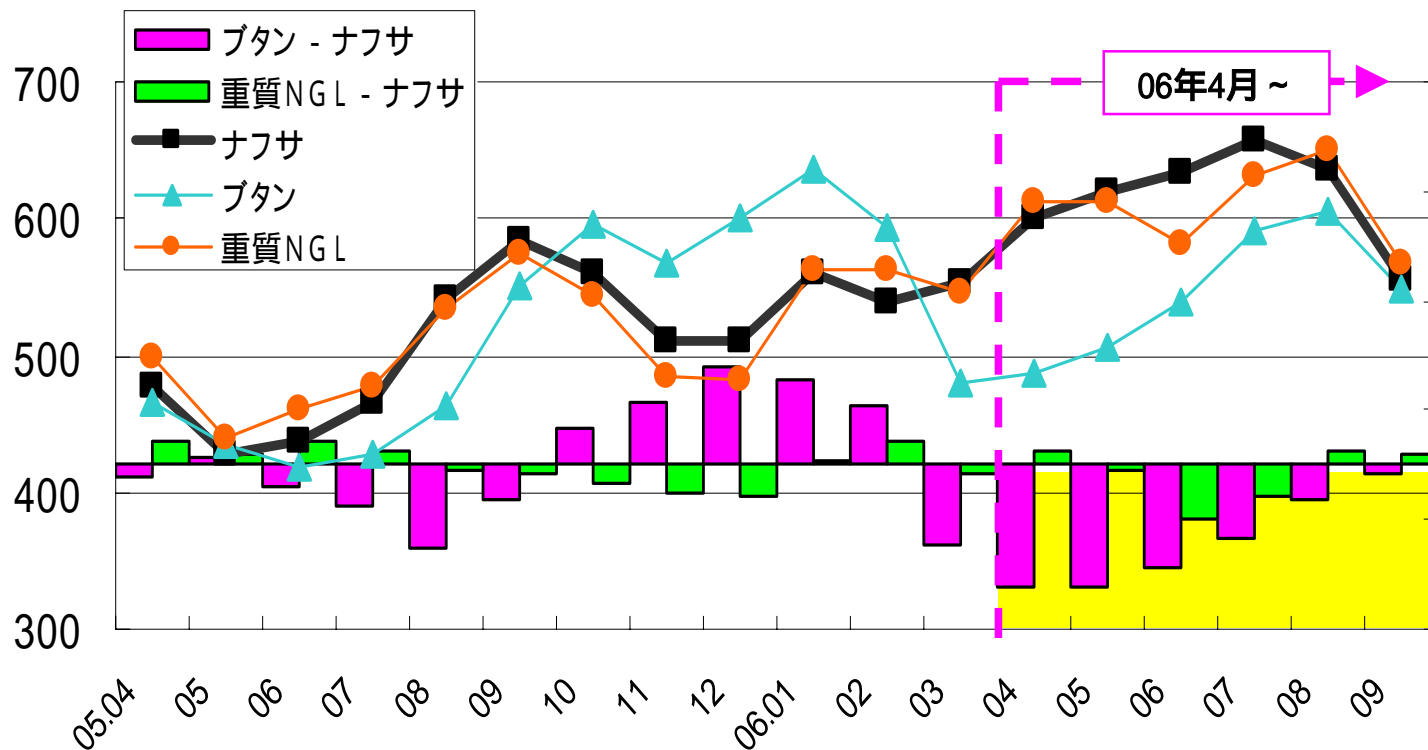
<原料価格>

(\$ / t)

### ナフサ・ブタン・重質NGL価格推移

<スプレッド>

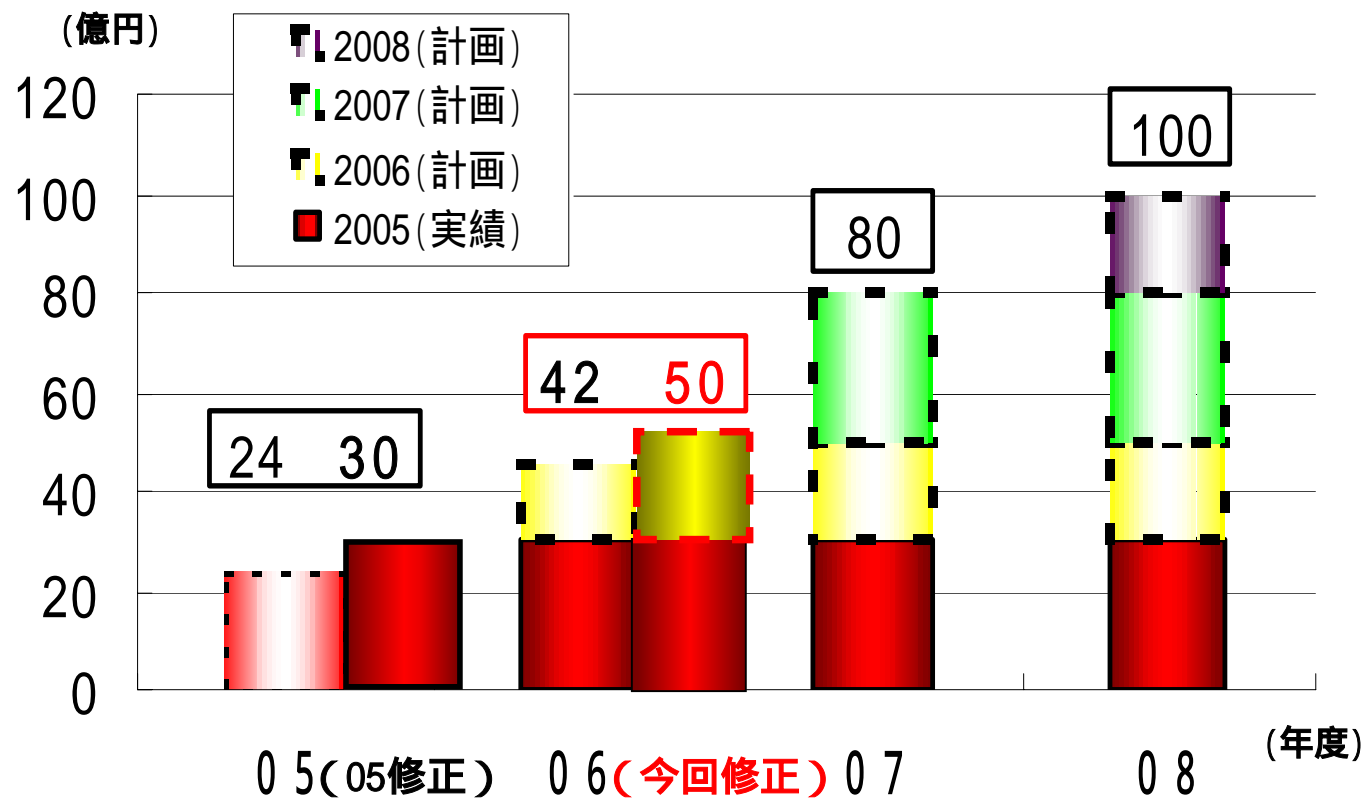
(\$ / t)



ブタン・重質NGL  
が競争力あり

## プライムポリマーのシナジー効果

### 06年初計画を上方修正



## 2. 石化・基礎化分野の収益力強化

# 石化・基礎化分野の収益力強化

機能性材料分野

情報・電子材料

ヘルスケア材料

機能性ポリマーズ

基礎化分野

石化・

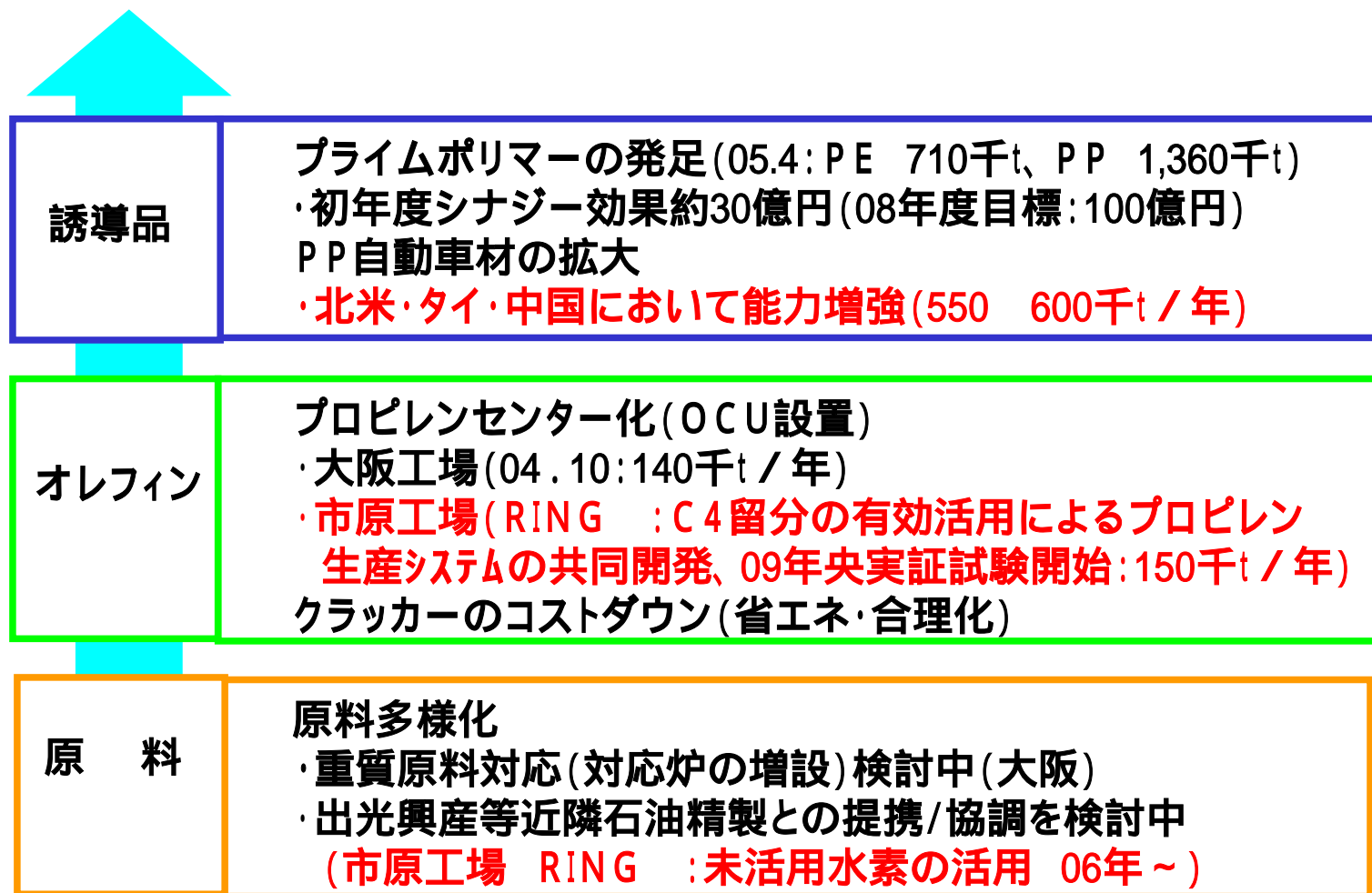
プロピレンチェーン

アロマチェーン

競争力の母体  
収益力強化

## 2. 石化・基礎化分野の収益力強化

# プロピレンチェーンの収益力強化



## 2. 石化・基礎化分野の収益力強化

### RING (石油精製高度機能融合技術開発事業)

#### 水島地区

コンビナート原料多様化  
最適供給技術開発

新日本石油精製、ジャパン  
エナジー、三菱化学、旭化  
成ケミカルズ、山陽石油化学

#### 鹿島地区

石油・石化原料統合効  
率生産技術開発

鹿島石油、三菱化学、  
JSR、鹿島アロマティックス

#### 千葉地区

発生源の異なるC4留分の最適利用  
によるプロピレン生産技術開発

複数事業所で発生する水素の最適  
融通技術開発

出光興産、コスモ石油、極東石油工業、三井化学、  
住友化学、丸善石油化学、太陽日酸

アジアトップレベルの競争力ある  
コンビナートに再生

## アロマチェーンの収益力強化

アジア地域への  
拡大

ア  
ジ  
ア

日  
本

拡大

収益力強化に向け、最適な拠点で能力増強  
(次期アジア拠点検討)

		現能力	(能力、単位:万t/y)
・PTA	タイ	90	140 (05.11営業運転開始)
	インドネシア	45	
	中国	0	60 (投資認可申請中)
・PET	タイ	10	15 (検討中)
	インドネシア	8	
・PH	シンガポール	25	30 (07.7予定)
	日本	50	53 (06.5営業運転開始)
・BPA	シンガポール	23	
	中国	0	12 (06.8着工 / 07.10完工予定)

原料系の強化

- ・クメン 完全自製化(04.10 大阪)
- ・ベンゼン 出光との提携(06年9月 LNR再稼動  
125千t / 年引取 市原)

## 2. 石化・基礎化分野の収益力強化

# LNR装置の概要

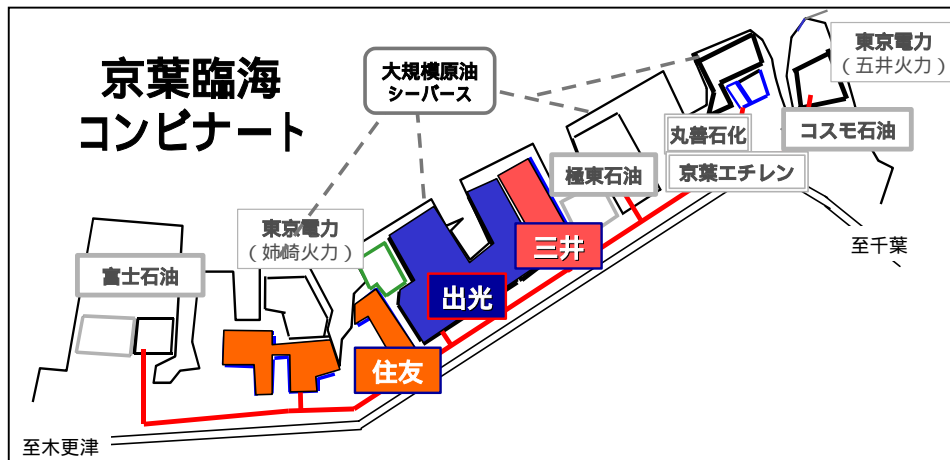
### 1. 所在地

出光興産 千葉精油所内

### 2. ベンゼン生産能力

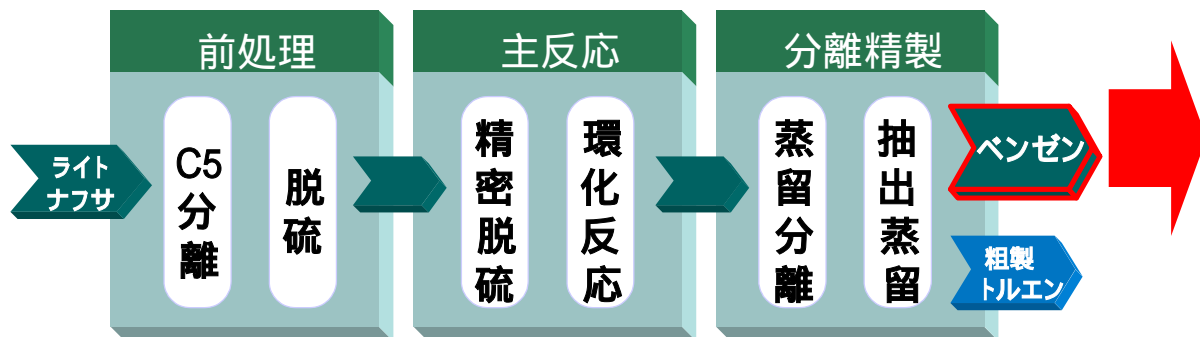
25万t/年

(12.5万t/年当社引取)



### 3. プロセス概要

ライトナフサ(軽質ナフサ)をベンゼンに改質する装置



アロマ原料安定確保と  
石精・石化のインテグ  
レーション強化

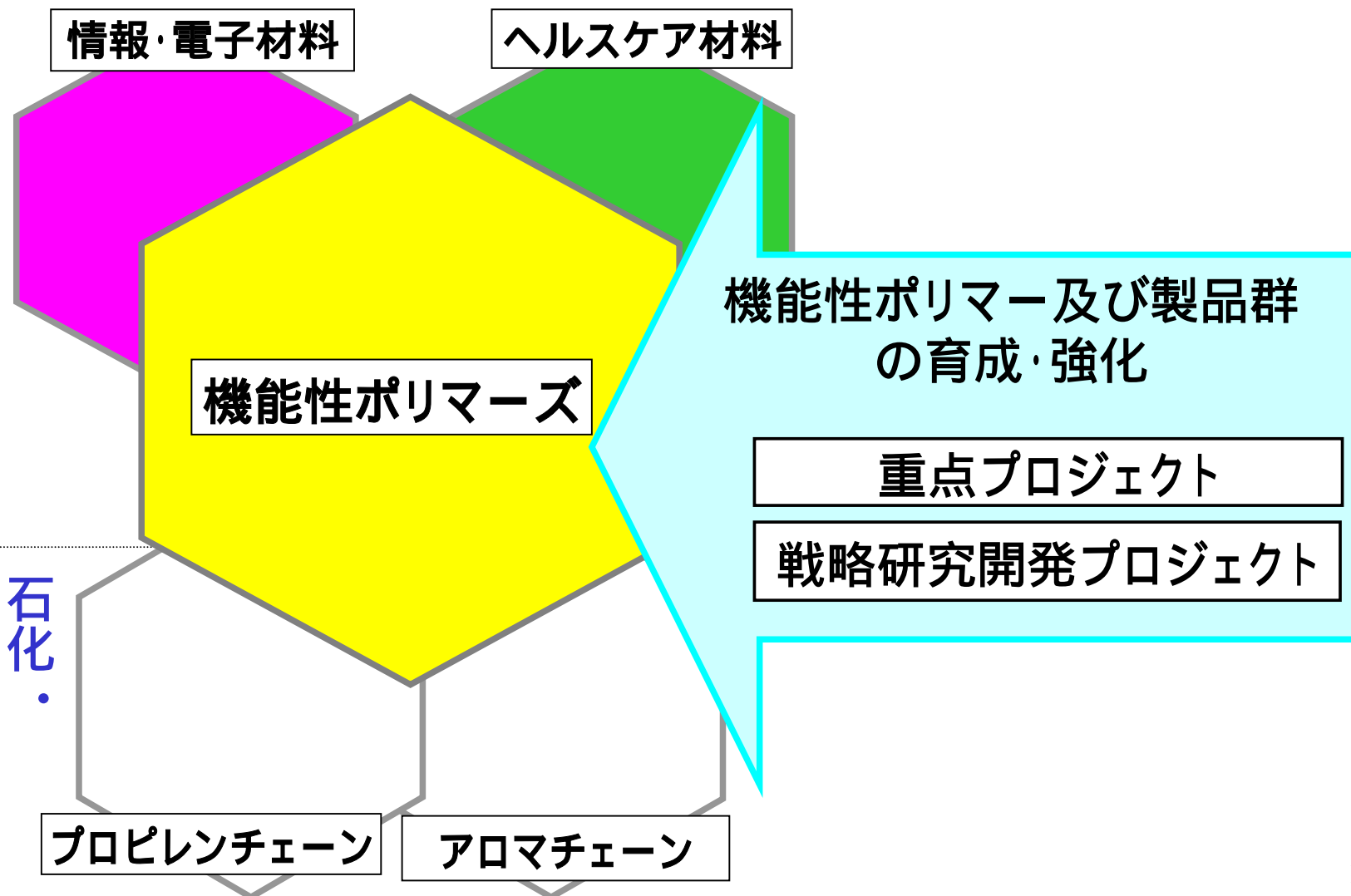


### 3. 機能性材料分野の拡大・成長

## 3. 機能性材料分野の拡大・成長

機能性材料分野

基礎化分野



### 3. 機能性材料分野の拡大・成長

## 機能性ポリマー及び製品群の育成・強化

計画どおり進行中

#### 機能性ポリマーズの拡大

エラストマー  
特殊ポリオレフィン  
ポリマーシステム他

売上高  
約500億円増

#### 機能性ポリマー製品群等の拡大

情報・電子材料  
ヘルスケア材料

売上高  
約300億円増

#### 重点プロジェクト

電子材料 : 半導体ガス  
情報材料 : PDPフィルター  
精密化学品 : 触媒  
工業樹脂 : メタロセンWAX

利益  
約100億円増

#### 戦略研究開発プロジェクト

新規機能性ポリマー開発促進プロジェクト  
高機能エラストマーの開発  
高機能フィルムの開発

投資  
約100億円

### 3. 機能性材料分野の拡大・成長

## 機能性ポリマーズの拡大

EPT・ミラストマー (ML)

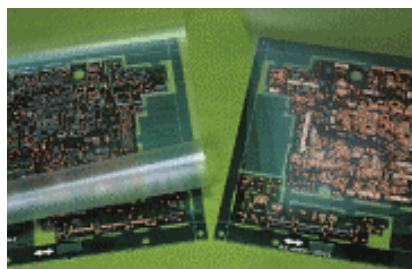
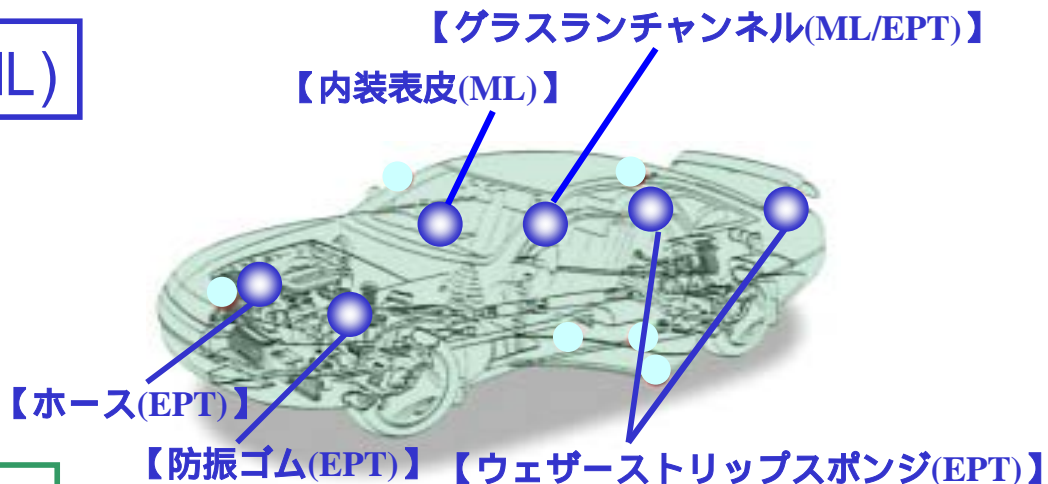
自動車材を中心に、

**販売数量60%増加見込**

(2006 2010年)

TPX

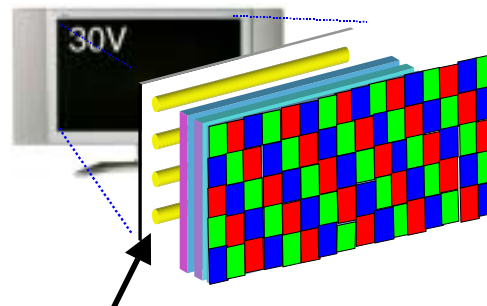
電子材料用途 (FPC離型フィルム、LEDモールド、液晶反射シート) を  
中心に、**販売数量70%増加見込** (2006 2010年)



FPC離型フィルム



LEDモールド



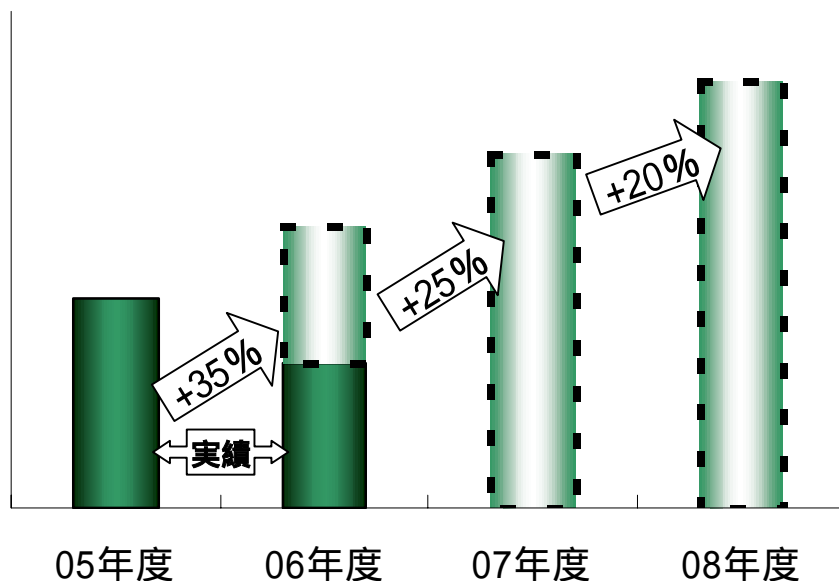
液晶反射シート

### 3. 機能性材料分野の拡大・成長

#### < 重点プロジェクト > (例 : NF3 / 例 : PDPフィルター)

NF3・PDPフィルターは、世界需要の伸び率を上回って、  
当社販売数量が順調に拡大。

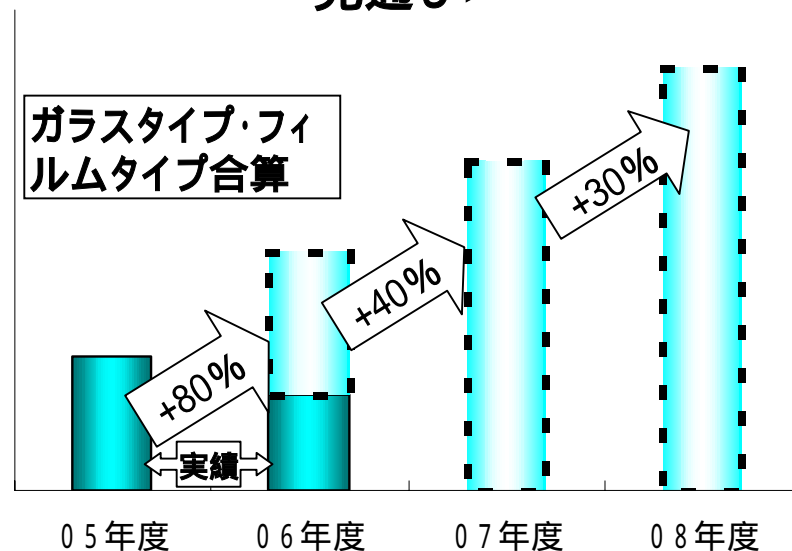
< 当社のNF3販売数量見通し >



< 世界需要伸長率 >

+25%    +25%    +20%

< 当社PDPフィルターの販売数量見通し >



< 世界需要伸長率 >

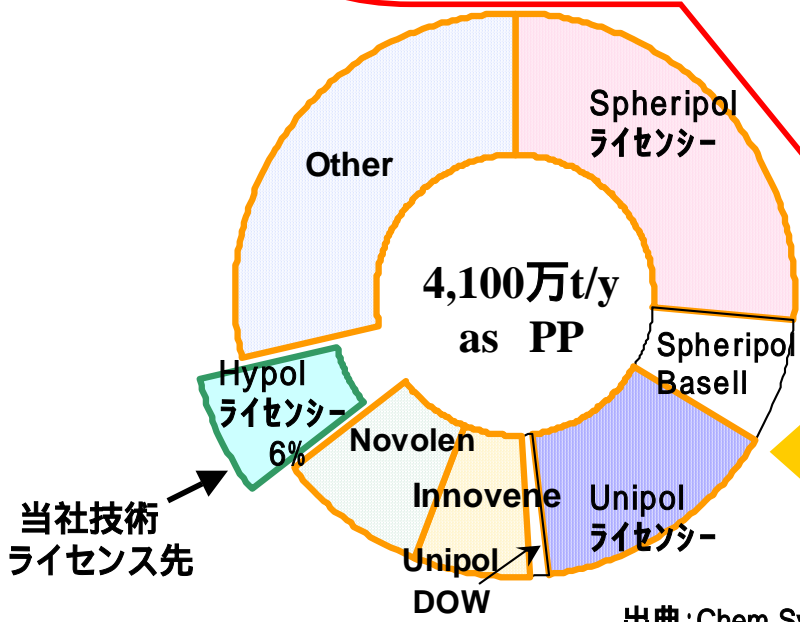
+50%    +25%    +25%

### 3. 機能性材料分野の拡大・成長

#### < 重点プロジェクト > (例 : 触媒)

触媒の品揃え充実により、ライセンス先以外への販売を強化し、  
着実に販売数量増加

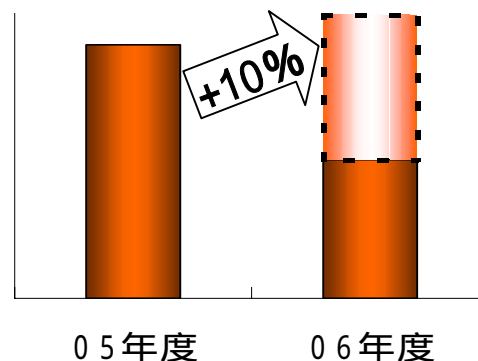
ライセンス先以外への  
触媒販売強化



出典: Chem System

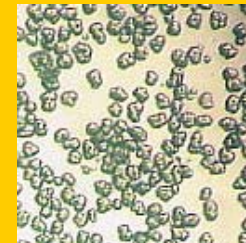
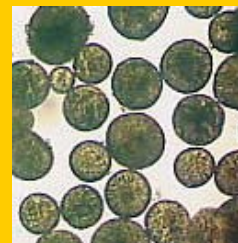
< 世界のプロセス別PP生産能力(04年度) >

< 当社の触媒販売数量見通し >



#### 【品揃えの充実例】

大粒径触媒 小粒径触媒



### 3. 機能性材料分野の拡大・成長

#### < 重点プロジェクト > (例 : EXCEREX<sup>®</sup>)

成形助剤としての機能(生産性向上・品質向上)が評価され、  
順調に販売数量増加(対前年度3倍)

#### 機能

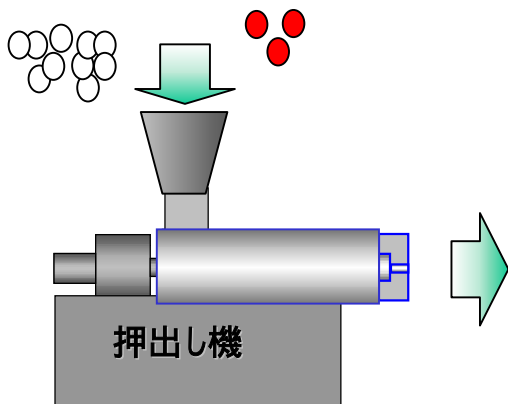
PE、PP成形時に数%添加することで、  
成形時の温度・負荷の低減  
ブリードアウト(べたつき)なし  
生産性・歩留まり向上

#### 用途

PE、PP成形における成形助剤  
生産性向上  
品質向上  
トータルコストダウン

樹脂 + EXCEREX

PE,PP



包装用フィルム



シート用フィルム



ボトル類



### 3. 機能性材料分野の拡大・成長

## 三共アグロ株の株式取得について

三共アグロ株式取得は、  
当社にとって4回目の大型提携案件

案 件	出資比率	売上規模の変化(概数:億円)		
		実行前	実行後	差
三井武田ケミカル設立(01.4)	51% (武田薬品49%)	700	1,000	+300
プライムポリマー設立(05.4)	65% (出光興産35%)	1,500	3,000	+1,500
三井化学ポリウレタン発足 (100%子会社化:06.4)	100%	-	-	-
三共アグロ株式取得(07.3)	100%	200	470	+270

# 三共アグロ(株)の株式取得について - 農薬の世界市場規模 -

市場総額：約3兆5000億円

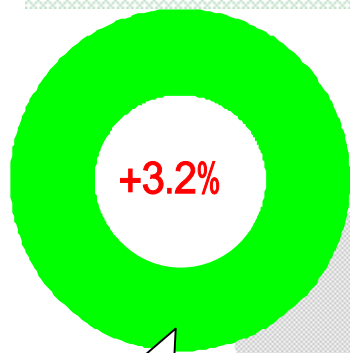
除草剤：48% 殺虫剤：25% 殺菌剤：24%

(世界6大メジャー企業：Bayer, Syngenta, BASF, Dow, Monsanto, Dupont)

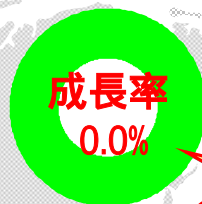
欧州：約1兆円  
30%

日本：約3,300億円  
10%

北米：約8,600億円  
25%

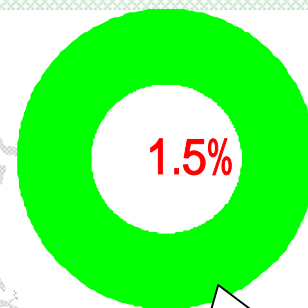


6大メジャー占有率約  
90%



6大メジャー占有率  
約35%

アジア・パシフィック：  
約5,100億円 15%



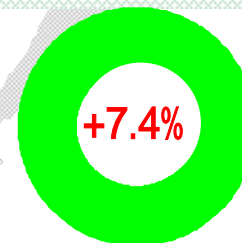
6大メジャー占有率  
約95%

南米：約6,200億円  
18%



6大メジャー占有率  
約60%

その他：中東、アフリカ：  
約1,800億円<3%>



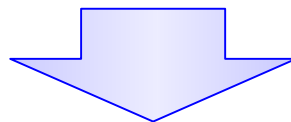


### 3. 機能性材料分野の拡大・成長

三共アグロ(株)の株式取得について - 日本の農薬に関する制度の動き -



**食の安全・信頼性確保に向けた取組み強化(政府)**



**残留農薬等に関する新しい制度施行(06.5 ~ )  
(ポジティブリスト制度)**

全ての作物における、全ての農薬の残留基準値を設定(ポジティブリスト)  
残留基準値を超えて食品中に残留する場合、その食品は流通禁止



**環境影響の少ない、低毒性農薬のニーズ加速**

## 三共アグロ(株)の株式取得について **- 当社の農薬事業戦略 -**

### 基本戦略

ヘルスケア材料のコア事業として、「食の安全」を確保するため、環境影響が少なく、かつ低毒性のグローバルな農薬を開発し、事業の拡大を図る。

### 強み

新規原体の**開発パイプラインが充実**  
**ハロゲン(塩素等)を含まない殺虫剤を保有**(トレボン、スタークル/アルバリン)  
水稻空中散布分野、土壌殺菌分野で高シェア

### 弱み

売上高研究開発費比率が高い  
製品の品揃えが少ない  
**販売力が弱い**



<トレボン>



<アルバリン/スタークル>

他社との  
アライアンスにより  
事業拡大を図る

三共アグロ(株)の株式取得について **ー期待されるシナジー効果ー**

**三共アグロの株式取得により、  
当社は国内農薬メーカーの中で、第2位グループに**

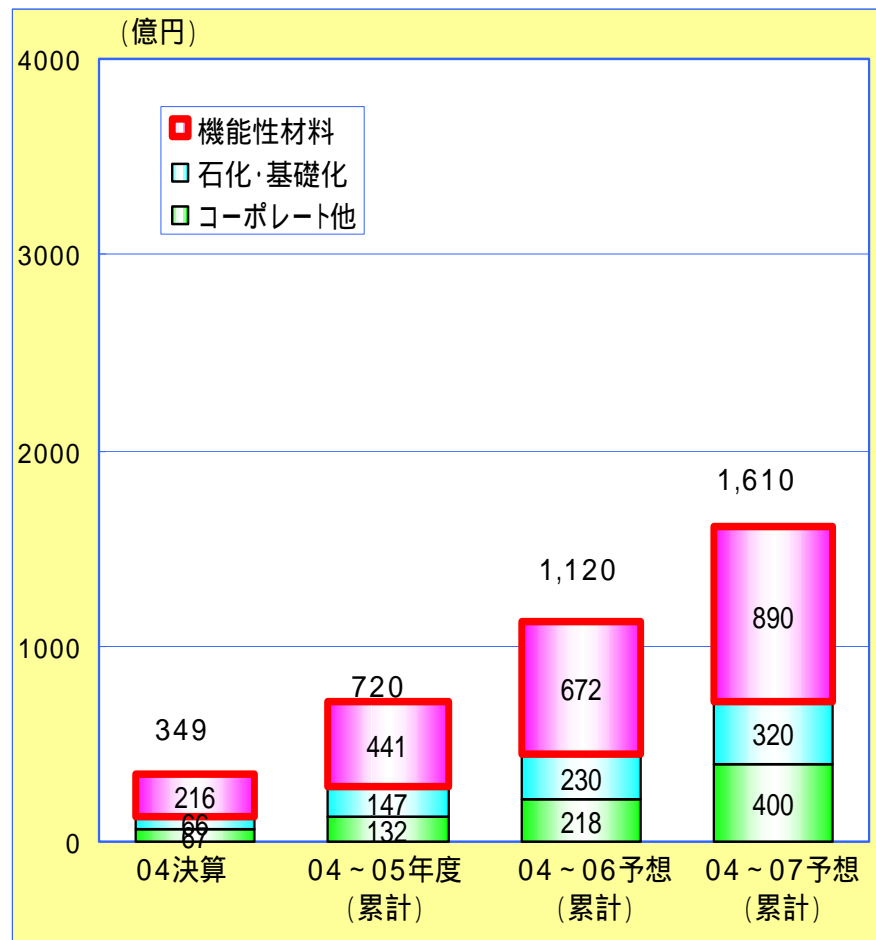
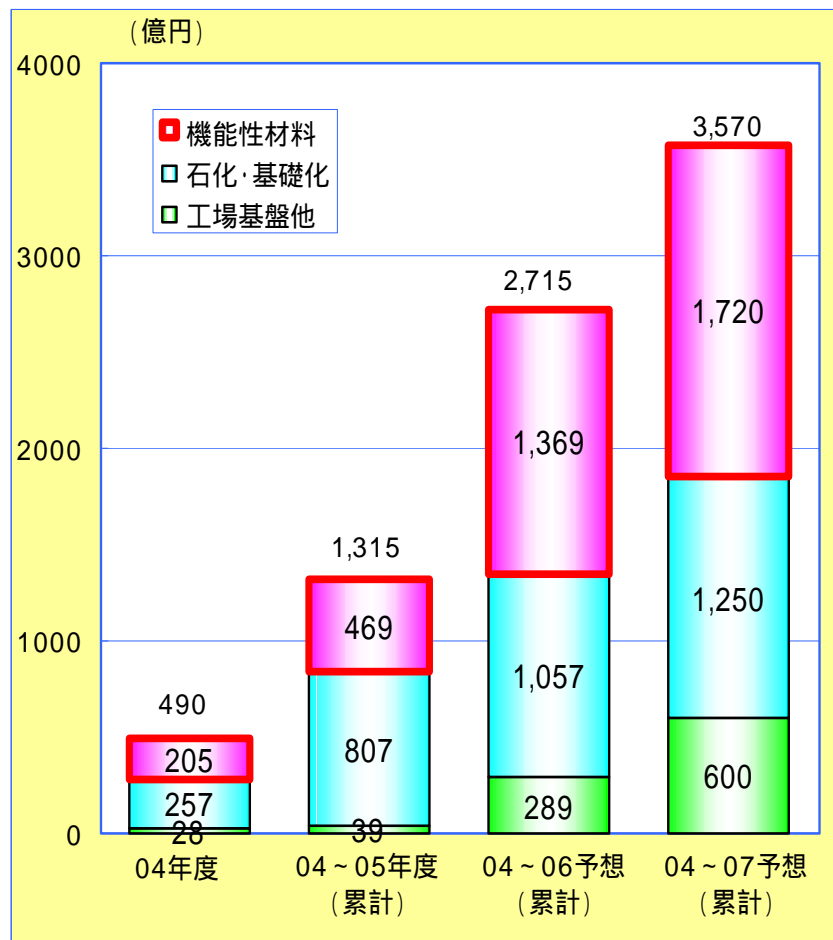
三共アグロの特徴	三井化学の特徴	シナジー効果
高い創薬能力 (水田除草剤他)	農薬原体の研究・創製力に 強み(パイプライン充実)	研究開発の効率化と パイプラインの強化
バランスの取れた品揃え (殺虫剤、殺菌剤、除草剤)	環境に優しい製品群を保有	品揃えの充実化
強い営業網 (ARのコンセプト導入)	<b>(販売力強化が課題)</b>	販売力の強化

## 経営資源投入実績と計画(04～07年度)

### 機能性材料分野の拡大加速のために重点配分

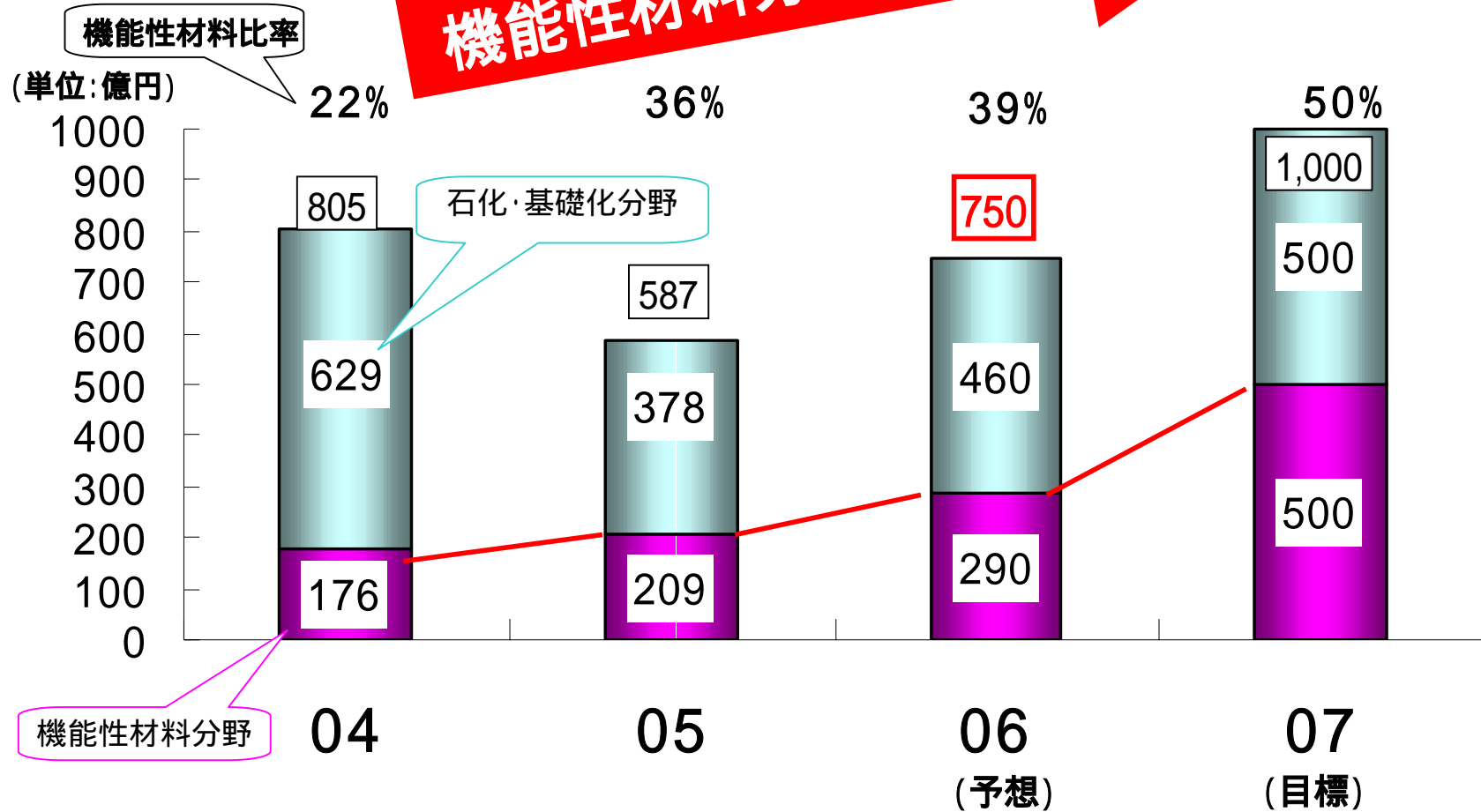
< 投融资 >

< 研究開発費 >



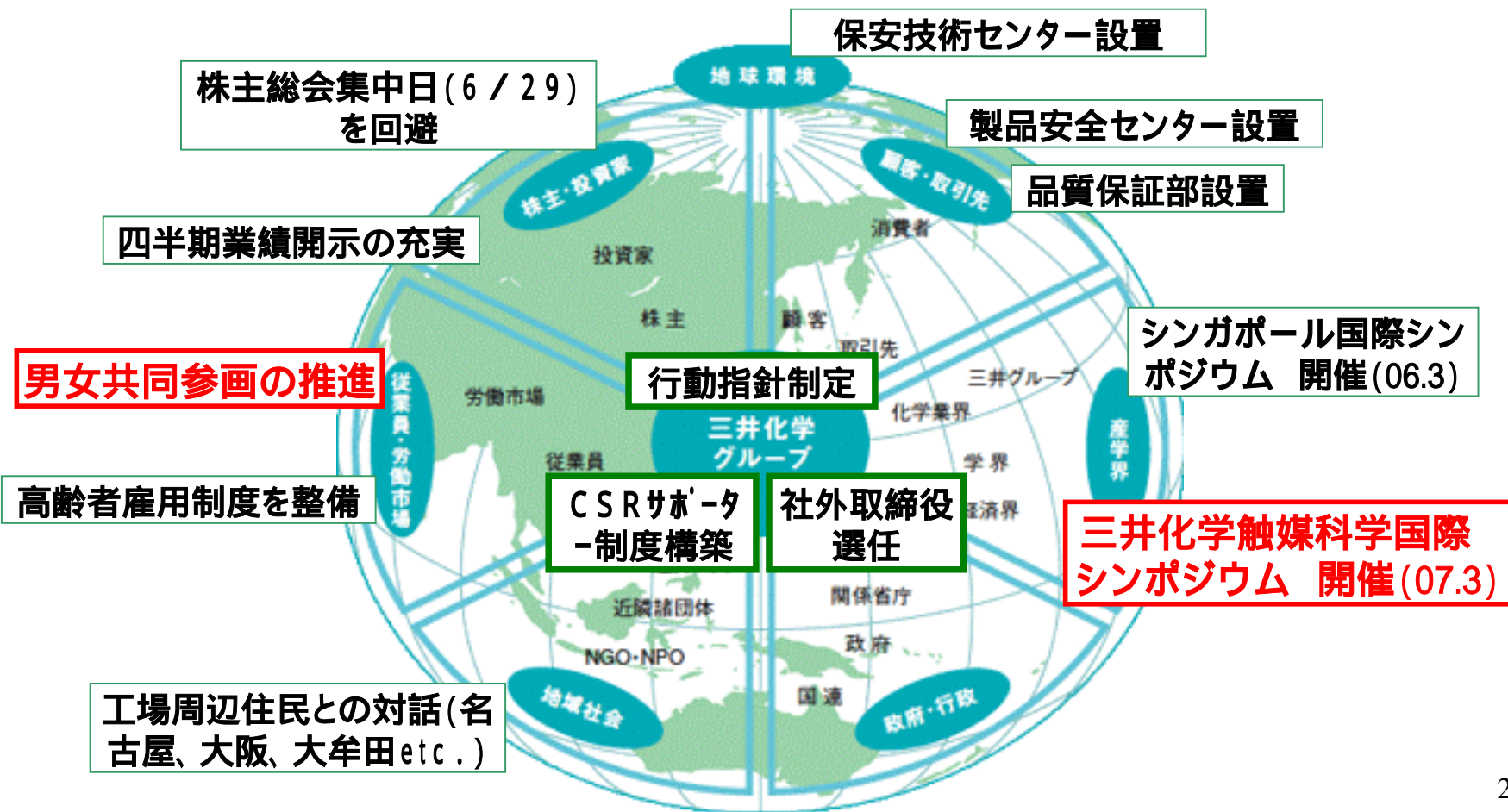
# 機能性材料分野 営業利益比率

機能性材料分野の拡大加速



# 主なCSR活動状況

～「夢のあるのもづくり」を通じた社会貢献に向けて～



## 男女共同参画の推進

「行動指針」に基づき、  
ポジティブアクションとして、  
女性社員の更なる積極的登用、  
そのための環境整備、能力開発支援を推進

風土・意識醸成

能力開発支援

ワーク・ライフバランス支援

Face to Face ネットワーク構築



< 女性社員登用推進チーム(06.5発足) >



< 啓発ポスター >

三井化学  
第3回

触媒科学国際シンポジウム

The 3<sup>rd</sup> Mitsui Chemicals International Symposium on Catalysis Science (MICS2007)

テーマ: 重合触媒ー現在そして未来ー

基調講演:

グラブス教授

(Prof. R. H. Grubbs)

- ・米 カリフォルニア工科大学
- ・2005年ノーベル化学賞受賞



レーン教授

(Prof. J. M. Lehn)

- ・仏 ルイ・パスツール大学
- ・1987年ノーベル化学賞受賞
- ・MICS2003の基調講演者



特別講演:

シュロック教授

(Prof. R. R. Schrock)

- ・米 マサチューセッツ工科大学
- ・2005年ノーベル化学賞受賞



招待講演: 8名

三井化学触媒科学賞及び同奨励賞

受賞記念講演: 2名

日程:

2007年3月14～15日

会場:

かずさアカデミアホール  
(木更津)



# 三井化学シンガポール技術センター開設

< 06.10.1 >

シンガポール科学技術研究庁 (A\*STAR)、  
化学工学研究所 (ICES) 内に、  
「三井化学シンガポール技術センター」設置



< ICES 所長 Dr. Keith Carpenter と当技術センター長 永田によるテープカット >



< 技術センター開設にあたった関係者 >



本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。  
従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

お問い合わせ先 : 三井化学株式会社 IR・広報室  
住 所 : 東京都港区東新橋1 - 5 - 2 汐留シティセンター  
電 話 : 03 - 6253 - 2100  
F A X : 03 - 6253 - 4245  
ホームページ : <http://www.mitsui-chem.co.jp>